

第4回町田市新庁舎建設設計者選定委員会議事要録

日 時：2005年12月17日（土） 午前10時00分から午後6時40分

場 所：町田市役所中町第3庁舎1階都市計画部会議室

出席者：三井所委員長、高見澤委員、河野委員、松川委員、加島委員

事務局：渋谷新庁舎担当部長、石川新庁舎担当課長、千葉主査、傳田主査、小寺主査、
端主査、浦田主事、瀧野主事

資 料：第4回設計者選定委員会進行表（案）

資料1「第2次審査提出者宛て送付文（案）」

資料2「杉並区高円寺会館改築資質評価型プロポーザル作品現地審査（事例）」

資料3「公開ヒアリング配置概略図等（案）」

資料4「立川市新庁舎設計者選定競技公開ヒアリング（事例）」

当日配布資料

- ・「＜資料1＞第2次審査提出者宛て送付文 差替資料」
- ・資料5「第3回町田市新庁舎建設設計者選定委員会議事要録（案）」
- ・第1次審査経過表＜資料5付属資料＞
- ・町田市新庁舎建設設計者選定第2次審査簡易提案書チェックリスト
- ・歩行者動線と自動車の動線について
- ・立川市新庁舎設計者選定競技公開ヒアリング関連資料
- ・第3次審査に向けての協議事項
- ・第1次審査に関する新聞報道
- ・広報まちだ（2005年12月11日号）

当日作成資料

- ・第2次審査集計表
- ・第2次審査集計表（得点を優先して並べ替え）
- ・第2次審査集計表（最終結果）
- ・町田市新庁舎建設設計者選定第2次審査の結果

<議 事>

- ・委員全員から予備審査リストの提出を受け、集計を行った。
- ・配布資料説明を行った。

1. 第2次審査の進め方について

委員長：第2次審査の進め方についてご意見を願います。

点数を見ると6点から11点までとかなり競っている。また、評価が分かっている。複数の目で見ても、議論を重ね、優れているもの、また問題のないものを

選定したい。提案をお願いする。集計表を見ると10点、11点のかたまりと、6点、7点のかたまり、中間の8点、9点のかたまりに分けられると思う。集計表を点数で並び替えてもらいたい。

委員：全部で12者なので、一つずつ感想を述べ合ってもいいのではないかな。

委員長：講評する上で、どういう観点で評価したかといった整理も必要。

委員：評価軸は大事だ。例えば人、車の動線、街並みとの調和などいくつかある。

委員長：周辺環境など。

委員：評価を変える事も躊躇しないことか。

委員長：人の意見で変わることもある。入選者も選定することとなっている。

委員：集計表の上位キ、ケ、コ、クから見ていくことにしてはどうか。

2. 形式審査の報告・委員よりの質問事項について

事務局：事務局で行った形式審査の報告をしたい。

第2次審査で提出された資料には簡易提案書と様式7、8がある。様式8については特に問題はなかった。

様式7について、1次審査提出書類様式6の主任担当技術者を除いて記入することになっている。受付番号18の応募者は一部重複して記入があったが、事実上問題はないと思う。

次に簡易提案書の形式審査について説明する。

簡易提案書表現例の認められない表現例について、AからJの文字を、提案可能な表現例については、アからクまでの文字を付した。

認められない表現例のA、Bについては配置図、C、Dは平面図、E、Fは鳥瞰パース、Gは模型、H、I、Jはパースではないかと判断した。

下の提案可能な表現例について、アからエについてはゾーニングのみという、ゆるやかな表現になっていると思う。オからクまでは概念図と考える。今回の提案では断面図、立面図というのがかなりあった。

文字のポイント数は概念図を除き12ポイントとしていたが、どこまでが概念図かというところの判断が難しい状況だった。

写真について、応募者の実績に関する写真は可能ということだったが、協力事務所の実績があった。応募者ごとに1枚ずつ見ていきたい。今回の形式チェックについては、あえて厳しく判定した。

- ・アについてはB、D、E、Iの表現、断面図があった。
- ・イはB、D、E、I、J、H、断面図、右下の写真が実績かどうか不明なものがあった。
- ・ウはC、I、J、断面図、文字のポイントが読みとれないほど小さいものがあった。
- ・エはA、断面図があった。
- ・オはC、断面図があった。
- ・カはC、E、H、J、断面図、立面図があった。

- ・キはA、C、H、I、J、断面図があった。
- ・クはB、D、E、断面図があった。
- ・ケはA、C、断面図、立面図、文字のポイントが小さいものがあった。
- ・コはB、D、F、I、H、断面図があった。
- ・サはB、C、E、断面図があった。
- ・シは、B、C、J、断面図があった。

応募者の実績以外の写真というところで、キの提案書については右下に協力事務所の写真が出ている。また、クについては2点ほど確認できないものがあった。写真については以上。

限り無く白に近い物もチェックした。中には認められない表現例そのものと思われるものもあった。判断について協議をお願いする。

続いて委員からの質問についての回答について、説明する。

まず1点目は、都営住宅との間の歩行者動線について、物理的には通行可能だが、土地については東京都の土地となっている。今後そこを通すとなると東京都との協議が必要になってくる。庁舎を建設するにあたっては当然市民ホールとの関係も重要なので一定の時期には協議をする必要があると考える。

今回の協議については、第2次審査質疑応答設問番号15の回答を参考に協議いただきたい。

自動車動線について、道路担当課に確認したところ、市民ホールと庁舎用地の間に道路をつくる事は可能とのことだった。ただし、道路として整備する規制等のため複雑となることから、庁舎用地内通路とした方が良いのではとのことだった。ただし、右折進入や信号機の設置などについては、警察との協議が必要とのことだった。

提案の中には、庁舎用地からJR横浜線の下をくぐって川の親水公園までの通路を設ける案もあった。こちらについても可能ではあるが、費用が30億程度必要となる等の問題もある。ユニバーサルデザインという観点から階段だけという訳にはいかず、スロープを設けるスペースがあるかどうかの問題と思われる。また、大雨時等の排水問題などが考えられる。以上。

委員：「委員からの質問」について、少し補足する。結論めいた事を言えば、歩行者の動線に関する問題はそんなに神経質に考えることはないのではないかと思う。また、真ん中の自動車のアプローチについては、市の方も具体的な計画案はないようなので、駐車場の位置などが不合理な案になっていなければ、それほど問題視する必要もないような気がする。

横浜線のアンダーパス案についても、気にしなくていいと思う。

委員：都営住宅の土地との問題については、どんな設計の案でもいずれ東京都と協議が必要と思われる。それをクリアしないと次に進まないと思う。あまり厳密な前提をたてなくてもよいと思う。

委員長：それでは、案を検討するとき気になる点があれば出していただきたい。

3. 失格者・要領違反について

委員長：認められない表現例と認められる表現例について、厳しく見ると全部が抵触する。結果的に失格要件になるかどうかということだ。

委員：断面図について、応募要領によればどうなっているか。

事務局：謳っていない。認められない表現例と提案可能な表現例の中から判断していただくこととしている。

委員：認められない表現例の中にも、Dの上のほうは断面をおこしているのではないか。これをもって断面を禁止しているというのは酷なのではないか。

事務局：第2次審査における提出図書等についての留意事項ということで、第1次審査通過者12者に送った文書の中の最初の項に「簡易提案書の表現方法」という項があり、その中で「『町田市新庁舎建設設計者選定実施要領』9ページに示したとおり、文章及びそれを補完する概念図で表現してください。概念図については、設計に及ぶような詳細な表現を避け、ゾーニングの組立てや形についてのイメージ、構造方式についての提案などに留めてください。提案にあたっては、別紙に添付の公共建築協会発行『設計プロポーザルの進め方』（プロポーザルマニュアル委員会編）32ページ～33ページ『提案の表現』に掲載されている表現例を参考としてください。」として表現しているのみ。写真について、その後謳って、「他者の作品や模型写真は不可となります」として、3番目に「表現方法が上記に合致していないと町田市新庁舎建設設計者選定委員会が判断した場合、その提案者は失格となる場合がありますので、ご注意ください」としている。

委員：そうすると問題は、逸脱しているのを罰するというより、公平性を欠かないかどうかということに論点に移るかもしれない。

委員：例えばAの案のように、ゾーニングとか断面イメージとか、厳密にいう断面図とは言えないというものが多いのではないか。

事務局：ご指摘のとおり、その辺も含め、資料は、少しでもその疑いがあればということで、材料提供と考えて出している。その一方で典型的に該当するものもあったということ。検討をお願いしたい。

委員長：AのEはたくさん線が引いてあるが、図面とはちょっと思えない。総構成の概念と思われる。すこし広げて考えていけば、これは概念図と見てほしいということで応募者は作成しているような感じがある。

委員：これはもともと応募者の負担を軽くしようということでこういうことを書いているのだが、実は、応募者に対してものすごく負荷をかけている。描かないと自分の考えていることが伝えようがない、最低ここまでは描きたいということがある。負担を軽減するのではなく、二度手間、三度手間みたいなことになっている。

委員：逆に言えば、ハードルを高くしているからこのくらいで済んでいるということ。これが低かったら完全にコンペのようにになっている。

委員：公平性を欠いていないかということか。

委員：ある人がものすごく厳密に考えて、本当はこうした方がいいが、これぐらいに

留めたという人と完全に無視してやった人とが出てくる。受け取る側としては描いてある方が分かりやすいが。

委員：提案の表現例も横に並べて審議して、これでは公平性を欠いて、われわれとしては減点せざるを得ない等があるかもしれない。そうしないと、あまりに書き込みが過ぎて、他の人が押さえたことに対して公平性を欠く。

委員長：減点の仕方というのは、大きく減点するか、小さく減点するかという点は。

委員：違反度に割り振ればいいのではないか。違反なしが10点等。

委員長：プラス評価に大きく触れたかどうかということもある。

委員：後で開示したときに選外となった人からの異議ということ予測しなければならないだろう。

委員長：ほとんどの案に事務局がチェックした印が付いている。その意味では、これはいい、どこまでならいいというのはまだ出ていない。

4. 第2次審査

<第2次審査の経過について>

第2次審査は、以下のように行った。

- ①最初に、第2次審査提出図書（匿名処理した簡易提案書、様式7、8）を選定委員に事前配布。
- ②選定委員は、審査会当日までに、この第2次審査提出図書をA、B、Cの3段階に評価し、「予備審査リスト」を作成。
- ③審査会冒頭、「予備審査リスト」を集計。
- ④予備審査リストの集計結果を参考にしながら、内容について審議し、第1次審査の提出図書（様式1～6）を加味しながら検討を重ね、最終的に第3次審査対象者3者と入選者4者を決定した。

<以下審議内容>

12者の案について、各委員がそれぞれの評価を報告した。

（キ案について）

委員長：それでは各案の評価の報告を集計表上位のキから順に願する。キはCが一つということは、あとはAかBなので、評価は高いということ。

委員：ただA、B、C全て付いているので評価が分かれているということになる。基本的に熱の入った提案だったと思うが、西側への環境配慮、防災関連では浸水対策についての提案が足りないと思う。

南北に分離して、それを西側の市民協働空間で繋ぐという発想はいいのだが、逆に南北に分断されてしまい、執務や連絡に問題があるのではないかと。市民も多少使いづらさがあると思う。

委員：ほぼ同様。高い水準だった。

委員：とても点が高かった。建築単体も景観や街並みに対する波及効果を述べていること、市民の庁舎全体の中のポジションというのもとてもいい。沿道中庭型というのも新鮮。街並みが猥雑な点をここで少し変えている。全体として高い。

委員：ワークショップについても仕掛けを考えている。

委員：Cにしているが、6つの中の3、3に入らなかったというのは、いくつか低層中庭型があり、他のものに魅力的なものがあったためだ。非常にオーソドックスでまとまっており、バランスがとれている。よくできている案ではあるが、すごく面白いというか、新鮮だという感じがしなかった。

委員長：AからBにしたもの。街並みを造るやり方で、沿道型と緑型という2つに分かれると思う。沿道型で造っていく意味で、なかなかいいと思っていたが、沿道型で内側に大きな広場があると街並みが途絶えてしまう。それほど後退しない後ろ場型というのがあり、その周辺にいろんな日常的な施設や緑、空間があるほうが、道路沿いにはいいのではないかと思ったことや北側に影響が少ないと思った。西側住宅地に対して駐車場のお尻が向いている点は、高さの問題も含めて気になった。動線等はすばらしい。いろんなことを考えていると感じた。AになるかBになるかは皆さんの意見を聞きたいと思った。

委員：市民ホールを一体にした広場を造ったのはこれだけかもしれない。口の字とか北側道路側に広場など、広場の取り方がうまい。

委員長：広場で都営住宅が斜めに抜けているなどという点も囲み方がいい。

(ケ案について)

委員：Cを付けたが、多少字が細かいのが逸脱条件で影響した面もある。BではなくCになった大きな理由は、中身は結構だが、これが他市の市役所と言われても通じるのではないかという点。基本計画をよく読んで、町田の言葉で翻訳したものとしてほしかった。

委員：Cとした。印象で分けたときはいいと思った。形がとても魅力的で柔らかく、いいと思ったが、細かくポイントを分けてみると記述のないものがあったり、防災拠点については書いてあるがそれ以上に踏み込んでいない。町田らしさがどこにあるかという点に通じるかもしれない。全体的な形というところで点を取っていて、あとはそれほど点を取らなかった。それで総合点が低くなってしまった。たとえば建築モデルは建築デバイスだと言われても分かりにくくて困る。分かりにくくてワークショップをやるときどうなるのかという気がした。

委員：Aにした。かなり情報量が多い。一人で作ったのではなくチームでいろんな分野の人とディスカッションしながら作ったのではないか。それが随所に出てきていて、動線の問題とか、気候の問題、空気の問題、全体を通じてやっているの、住民、職員を重点的に考えているのではないか。住宅地を見下ろさないとか、柔らかな建築という点に惹かれた。住宅地を見下ろさないという点は、権威主義的でなく、いいと思った。

委員：難解で、読みとるのに困った。ありとあらゆることを盛り込み、ひと通り全部書いている。それなりの筋があって、建築のことも一生懸命書いている。Aにしておいておかしいかもしれないが、街並みとどう関連するのかほとんど書い

ていない点は、バランスを失うと感じた。階段状の空間はイメージは分かるが、階段の下が断面で見るとつぶしてあるなど気になる点がいっぱいある。すごくエネルギーがあって面白い。できあがれば非常にユニークな市庁舎になると思うが、一方で予算的な問題も含めて、危うさを感じる。

委員長：様々な知恵、いろんな人の智恵を吸収して、作っていると思った。漏れが少ないと感じた。いろんな出会い、人と人の出会いについての意識を十分しているのではないかと感じた。形のほうは、特に棟を被っている物が、何でできるのか、コストに合わせるために安っぽくならなければいいと思う。軽やかに乗っているのだが強い風が吹くとかなり閉鎖的な屋根になってしまうのではないかと。概念と違ってくる可能性が心配で、実際の設計の段階で、どこまで軽やかな屋根で、安っぽく見えなくて、なおかつ耐久性のあるものがどう造れるかというあたりが心配。

委員：これは、ほんとうに柔らかな建築かどうか分からない。言葉に引っ張られる面がある。結構権威的に見える。実際10層、7層、4層という断面か。ものすごいスケールに見える。

委員：結構大きい面を被い尽くしている。

委員：建物に集中した提案に見える。広場の連鎖で街並みを、とは書いてあったが、駐車場のことが書いていなかった。

委員長：右端の上から二段目の所に「10. 将来の増築へのポテンシャルティ」というのがあり、本体から切り離されたところに駐車場がある。駐車場に高層棟が増築できると書いてある。

委員：当面はピンクのところを低層の駐車場とすると読み取ればいい。場合によっては都営住宅を巻き込んでの増築の場所として利用する。他の案に比べ、あまり駐車場のことを考えていないことは事実。

委員：議会の記述が少ない。

委員：3つの棟を繋いでいるのかどうか分からない。下だけで繋がっているとするとそれでいいのかという面がある。

委員：西側では繋がっている。あとは繋がっていない。

委員：建築にはすごい力が入っている。12ポイント以下の文字をこれだけ細かく使っているのは最後振り返っていただきたい。他の応募者から見て、これだけ細かく書いていいのなら自分も書きたかったということがあるかもしれない。

委員長：普通の事務所でこれだけ細かいところまではやらない。感心した。

(コ案について)

委員：先ほどの案とは対比的、町づくりをよく考えている。Aクラスの位置付けを一度はしたが、市民の目から見たとき、ちょっとオーソドックスに過ぎていて面白さを感じない。他の案と比べ総体的に少し古典的。今後100年建っているとしても、今の時点というような表現がもう少しあってほしかったということでBとした。北側からの鳥瞰的なもの、あるいは平面図をここまで描いていいのかというのがちょっと境界点にあり、これだけリアルに描いていいとあの指示からは読めなかったと他の応募者が言うかもしれない。今の評価とは関係な

いが、この点について留意しておくべき作品だと思う。

委員：Aとした。奇抜でない。オーソドックス。言っていることが実現できるという自信にあふれている。リアリティーがある。市民のポジションや議会のこと、庁舎の執務空間、アクセス、パーキング、防災等いろんな面でいい点をとる。低層と高層の組み合わせが多かったが、これは6階で全部押し通そうという内容と併せてうなずける。

委員：平均的に全部網羅されている。ただ、特徴がない。AにはしないでBかCかという感じだった。ここまで絵を描いているのを認めていいのかというのがあった。真ん中に広場をとるとするのは、メンテナンス、セキュリティーの問題があるのではないか。イベントがあればこういう形になるが、普段市役所はそうならない。Bとした。

委員：B。広場のとり方は北側ではあるが、街に対して広場を受けるとするのは他になかった。これはこれで市庁舎のあり方としてあるのかと思った。これはこれで面白い。印象としては手堅い、オーソドックス。6階でほんとに面積が足りているのかと考えた。一番右側の4、5、6階の2,000㎡の執務空間部分、6層でも12,000㎡しかない。計算したわけではないが、全体に、建物規模を圧縮している。それが主張かもしれないが。悪い案ではない。AかBか迷った。

委員長：Aにした。前の広場が都庁・県庁ではだめだが、市役所では広場に意味を持たせて、おおいに利用可能ではないかと思った。駅からのアイストップに議場が来ていて、広場を囲んでいる。議場を表に出している。議場の今後の使い方等については新しい試みではないか。駅からの流れを議場で止めて、1階部分が市民利用施設になると考えると、そこからいろんな方向へ移動する人が出てくるので、広場が意味を持ってくる。西側住宅地への配慮は、西側ウイングの造り方とともに、いいと思った。

広場を造ることによって沿道性がなくなるというか、賑わいがなくなるということが起きる場合がある。空間が街並みに寄与していない場合や広場が連続していないという事例がある。この広場の使い方について、コンビニなどいろんなものが入ってくるなど、利用の仕方を考えていけばいいのではないかと思った。

委員：完成度が高いだけに、短期に造るということではありがたいが、市民との対話をしたときにここまで完成度が高いと、新たに市民から何を汲み取るか、ここまでやったのだから、もうこれでいきますとなっても困る。

(ク案について)

委員：いい点を付けた。溢水のことがないことや西側への配慮について少し問題があるが、ひじょうに面白い。執務室を真ん中にもってきて、周りにという発想自体はとても面白いと感じたが、逆にいうと日常的な執務スペースの環境が、このライトウエルで気持ちのいい執務空間が保障されるのかという点が読みきれなかった。しかし、面白い、新しい提案と受け止めてAとしている。

委員：市民のゾーンはあるが、市庁舎の中にどう受け止めるのか描いていないのではないか。執務空間について、県の庁舎で見たことがあるが、中廊下は、2、3

階だとすごく気持ちがいいが、井戸のようになると暗くなり、あまり良くなかったという経験があり、点が高くならなかった。アクセス、パーキング等は、専門らしいところがでている。しかし、景観、街並みに対する配慮については、あまり分からなかった、外から見るとすごくマッシブに見えるのではないかと感じた。それで減点にもなり、魅力の場所というのがうまく言えなくてCとした。

- 委員：Aとした。共有ゾーンの考え方について、いいなという感じがした。全体的に、割と分かりやすい提案だったと思う。あまり迷わずにできるだろうと思った。
- 委員：Bとした。段階的公共性が、ほんとにこんなに綺麗に行くかどうかはともかくとして、これはこれで面白いと思った。構造的な話も含め、単にダイアグラムで説いているようなところもあるが、構造と動線、建築のあり方がそれなりに解けている。建築処理としてはうまい。逆に言うともものすごく堅く見える。堅すぎて動きがとれない。建築がものすごくシステムティックに綺麗に解けているから、内部のフレキシビリティが非常にないような気がしてBにした。ある意味で非常に建築的な提案という気がする。
- 委員長：Cとした。駅からの流れを駐車場で止めて、屋根が架かって屋上の公園テラスの下に入って、あるいはそこに棟が上がるというか、公園の下に入っていく庇の先端が道路にかなり接している考え方があまりいい気がしない。奥に見える建物がコアタイプの逆転のように省エネ的にはすごくよさそうだが、外側が守られていて、ゲイン、ロスが少ない気がするが、階段や会議室や休憩室など日常的に仕事をしている空間が外側から見えない。建物の窓というのは重要だと思う。窓にあたる外周部分が、どうも市民との関係というか、ここに来た人という意味ではなく、外にいる人との日常的な沈黙のコミュニケーションができないのではないかと。そういう意味では、周りに従属空間があって真ん中にメインの空間がある。その主空間ではないものが多く、みな被ってしまっているのが一番気になった。新しいタイプだけにそういう逆の想いになった。

(工案について)

- 委員：最初いい評価だったが、総体的にBとした。建築的に2、3階ぐらいのところ
で屋根を付け、下は自由な配置とし、全体的に大屋根を架け、一部にダブルスキンの高層棟があるという案。それはそれで面白いと思ったが、Bとした。
- 委員：あまり良くなくて、Cとした。全体的に魅力がない。せっかく大きな屋根の下
にいろんなものを入れているが、それが活かしきれていない。後ろが壁のよう
に見えるのもあまり気に入らなかった。防災のことは免震等書かれている。こ
の案が親水公園を出している案。景観や街並みの表記もない等いろんな面でC
とした。
- 委員：全体で議論になるかもしれないが、全体に屋根を架ける設計について、費用面
でどうなのか心配だが、面白かったのでBとはしている。
- 委員：Cとした。あまり魅力を感じなかった。コンセプトで行政、市民、議会を建築
に落とし込んだ感じがよく分からなかった。真ん中のゾーニングが機能的な感
じがしない、ばらばらな感じ、未消化な感じを受けた。

委員長：何回も読んで採点し直したときCからAとした。人工地盤のような2層半で作っている。このところに光が落ちてくるということで、覆われた広場を造って、機械室を屋上にするとか、ハイウオーターレベル2m予想水深線への配慮、防災的配慮など立地に対して一生懸命考えていると思ったが、総体として高く評価したわけではない。全体の配置についてもいいと思わなかった。

(カ案について)

委員：すっきりした提案だが、いまひとつ引き付けられるものがなかった。また、水防災の話し、西側への配慮について書いていない。結果的にCを付けた。

委員：Aとした。全体的印象としては、何気ないが品がある案だという印象。水害の件を書いていないのが気になった。地震については書いてある。それで少し点が落ちたぐらい。市民のポジションもいいところにある。議会も2階で、いいと思った。アクセス、中層でバランスがいい。全体的に点が高かった。確かにパンチはないが、品がそれを補っている。

委員：他の案が書き込んであるので、シンプル過ぎると感じた。動線や駅からのアクセス等、その辺のところはどうなのかというのがあった。雑木林の発想等、1次審査のときは良かったと思ったが、そのまま書いてきており、結果としてCになった。

委員：私はA。先ほどキ案のところで出た沿道中庭型の緑と開口と中庭の関係がすごくいい。街に対する配し方がいい。全体に書き過ぎていなくてうまい。市民フォーラムの感じとか、ダイナミックなもの。下の断面の斜めのブリッジみたいなもの、図書室、ラウンジ等と描いてあるところが面白い。気持ちのいい空間。空中回廊と交差してある。随所にしゃれた感じがある。こういう市民フォーラムはセンスがいい。親しみやすくハイセンスな建物になるのではないか。真ん中の協働ラウンジを真ん中で螺旋状に繋ぐというところは、行政部分と市民部分を分けている案が圧倒的に多いが、各階に全部吹き抜けのところは市民、周りに行政という組み合わせになっている。行政の意見が必要だが、提案としてユニーク。Aとした。

委員長：私は今のところが、逆にマイナスに付いており、Cとした。庁舎の執務空間が敷地いっぱい、外周に分かれている。市役所の仕事としてすごく距離感が相互にあり過ぎるのではないか。市民との結びつき方はすごくよくなっているが、各階に協働空間を持ってきたために、さらに遠くなってしまう。市役所の庁舎がこんなに距離があって一体感がないという点、庁舎のあり方が気になった。この案の良い点を消してしまっているのではないかと思った。これは意見を伺いたいと思っている。

(イ案について)

委員：Cを付けている。特に悪いCということでは全くなく、3つ、3つ、並べた結果、6つのほうに入った。すっきりはしているが結果的にCになった。

委員：Bとした。初めすごくいいと思ったが、点を割り振ってみたら、少し足りない部分がいくつか出てきた。しかし全体的に結構いい案だと感じた。市民に直結

した議場とか、高層と低層で組んでエル型にしているが、駅から見えるところなどしっかり書いている。カウンターのない執務空間は、どういうことをやるのかが疑問点。

委員：Aにした。最初に見てシンプルで使いやすいと感じた。いろんな方向から市役所にアプローチできることを考えていて、それも一つの考え方。外から見える形について色々検討している。駅の西口デッキから見えるなどよく考えている。

委員：プレゼンテーションが上手。綺麗だと思う。最初Aにしていたが、良く見ていくと街との絡みとか、景観で全体の半分ぐらいを述べていて、建築に対する述べ方がものすごく少ない。基本計画書というか、市民の方と一緒に作り上げたものに対してきちんと答えていない。だんだん点が低くなった。エル型といっているが実は、エレベーションをごまかしている。本当は分厚いもの。片側だけを強調して描いてシャープなエルに見えるが、プランを見ると分かるがポテツとしたプロポーション。一番上の横並びの絵は明らかに違う。Cとした。

委員長：品のいい表現と思ったが、Cとした。シャープなシルエットだと初め見たが、やはりそうではなくマッシブなシルエットがあって、しかも通り側にコアと壁面があるし、外から中の表情が見えないような建物になっているのではないか。市役所の中が予測できないのは、建築のあり方としてどうか。

(ウ案について)

委員：これは他の人とは表現が違う。色鉛筆風で、応募要領をよく守っている印象だ。最初見たときはあまり評価しなかった。よく読むとなかなか面白いと思ってはみたが、並べてみると結局Cになった。逆に言えば、とてもいいと持ち上げるだけの魅力がなかった。結果的にCで、妥当と思ったCではない。Bとしても可。

委員：Bの中では高かった。街並みを造る景観配慮はいいと思った。アクセス等分からないことも少しあったが、基本的にはとてもよかった。ただ、全体的魅力が少し足りず、Aにはしなかった。

委員：Cとした。面白いかなと思ったが、描き方は別にして、他と比べ内容的に特徴がなかった。順番を付けていったらCになった。

委員：私はBとした。最初は目に止まっていなかった。個々に言葉を追っていくとよく考えてある。プロポーザルの表現について忠実にやろうとしている部分が結構あるため、外観イメージがほとんどない。どういうエレベーションなのか分からなくなっている。ハイセキュリティの高層棟など、おぼろげには分かるが、それがすごく損をしていると思う。街並みの話等9つのポイントは、それぞれ説得力がある。7番のグリッドシステムは分かりにくかったが、ほんとに建築的にやろうとするとすごく面白い提案なのかと思った。Aに近いB。表現が全体としてすっきりしておらず損をしている。

委員長：プロポーザルという感じでかなり高く評価している。Bの中のトップに評価している。街並み、市民とか、セキュリティシステム、参加型の話等、この町田の庁舎についてずいぶん考えて提案しており好感を覚えた。

(サ案について)

委員：とてもすっきりとしていて、とても綺麗だと思ったが、他の皆さんの表現と違いあっさり書いている。今回要求レベルだと思ったが、一方他と見比べたとき点が低くなりCとした。中身としてはとても発展性があると思った。

委員：Cとした。確かに違反表現をしないということも影響したかもしれないが、力の入れ方が伝わってこなかった。迫力に欠ける面がある。防災については、制震、免震について書いてあるが、川のことが書いていない。巴形の意味をもっと述べてほしい。

委員：Cとした。シンプルだが、書き込みをもう少し入れてもらってもよかったと思った。

委員：Aとした。巴形とは、行政と市民で真ん中にフォーラムと言っているが、そこがいわば広場的になっている。この案は、ある意味過不足なく書いてある。プランがあって、構成があり、断面があって、断面もさっぱりしているが、西側にアトリウムを設けて西日を避けている。よさそうな、可能性がある感じ。1次審査の提出書類で、パブリック空間の重層的な構成、回遊性をもった、というところがすごく面白いと思った印象がある。これをある意味踏襲している。同じ色使いをしている。これくらいがプロポーザルの線かと思った。構成も過不足なく、分かりやすい。絵も綺麗だ。最初は薄いと感じたが、必要なことは言っているのでいいのではないか。

委員長：Aにした。エスカレーターが連続しているところは、人が動いている感じがした。庁舎の中に市民が多くいる感じのいい案。

(ア案について)

委員：Aとした。絶対的Aではないが、バランスがいい。特に強い主張は私にはない。

委員：表現は綺麗で上手だが、細かく視点を分けると、やはり建築に集中していて、街の中の庁舎であるということを重視していないのではないかとという点や、ずっと気になっていたが、コンセプトの自由市場の意味が理解しかねる。なぜ自由市場なのか。ここに意味を持っている人だともしかすると違うのではないかと思った。Cとした。

委員：市政の自由市場という言葉の内容がよく分からなかった。下段の黒い部分は、他の庁舎の提案のとき出したものをそのまま出しても変わらないなと感じた。それぞれの中に書き込んでおいて欲しかった。

委員：私もCとした。取り立ててだめというのではない。断面のイメージは比較的よくできている。議場が浮いているような感じで、実際どうなるのかはよく分からないが面白いかなと思った。とりたてて魅力的という感じはしなかった。

委員長：ほとんど同じだが、気になったのは議場の持ち上げ方、広場の上に議場があって、議場の床下を見る感じ。議場と市民との接触を考えると下から上を見上げる関係というのは違うのではないかと思った。

(オ案について)

委員：特徴が感じられない割に、多少西側に張り出しているところとか、気になるとこ

ろが多かった。結果としてCになった。

委員：Bとした。確かに、形が良くなるのかがひじょうに疑問だった。市民のアゴラを造るとか、人、街、未来というふうに分ける分け方も、中身がどうかということがあるが、なかなかいいのではと思った。Bの中間。

委員：Bとした。1階の部分が通り抜けでロビーになって、各部署の窓口に入って、また、その上に市民アゴラを造るということで、一般市民が二つのフロアーを使えるのは面白いと思った。ただ、絵で見ると緑の丘から見えないような線で、下まであるが、多分階段等で上に上がって来るのが大変だろうと思った。エスカレーター等がないと市民アゴラに人を誘導できないのではないかと思った。面白いとは思った。

委員：Cにした。右に書いてあるダイアグラム、ゾーニングの絵などあまり明快に整理できていないような感じがした。動線の処理として分かりにくい。2番目もそうだ、1階、2階ともあまり明快に整理できていない。特別魅力が感じられなかった。Cとした。

委員長：駅から市庁舎があるという印象がしないのではないか。もう少し市庁舎らしい前面というのがあっていいのではないか。賑わいは連続しているが、市庁舎という感じが消えている。それと庁舎の上層部のあり方に魅力を感じない。Cとした。

(シ案について)

委員：皆さんC、私だけBとしている。多少シンボリックな市庁舎ということで、他の委員が応援するならば浮上する可能性を残そうと思った。

委員：全体的な魅力という意味で、パンチが足りない。くし型縁側空間というのを打ち出しているが、綺麗な気持ちのいい空間になる可能性がなかなか見えない。これだけが、議会が最上階になっているが、市民が簡単に傍聴に行ったりする気になるか疑問ということで、他の案の方が優れているのではないかということ、Cとした。

委員：私も最初からあまり良くなかった。町田の原風景を再生するというが、どこが原風景の再生なのかが分からなかった。

委員：それぞれの場所のイメージは、面白いことを考えている人だと思う。緑の丘の上にガラスのものが浮いているとか、下のアイソメのスペース、議場、下の緑もそうだ。ただ、全体として何か建築の対し方が分からない。北側道路の接し方は、これでほんとにいいのかと感じた。イメージとしてあるが、全体として建築になったときに分かりにくいものとなっているのではないかという印象を受けた。Cとした。

委員長：緑で被いたい気持ちはよく分かるが、緑の植え方が、最上階やバルコニーの下でこんなに大きい木があることまで描いてしまうと任せられない。全体としては綺麗だが、Cとした。

それでは、まず外すものを選ぶことにする。下の3者（ア、オ、シ）は外すこととする。次に、エ、カ、イ、ウ、サについて。9点と8点。パネルを並べて審議することにする。もう少し匿名で審議することにする。

【ア、オ、シを選外とした。】

エ、カ、イ、ウ、サのパネルを並べて審議した。

委員：エについては、コストがどうかと言ったもの。確かに気になった。

委員長：配置がどうか。大屋根の下に納めましたというところが。

委員：くっついていないとすると、ものすごい経費がかかるのではないか。

委員：私は、これは落としてもいいと思う。あえて弁護すれば、議論して色々考えていくことをイメージして提出されたと理解すれば。くっつけてもいいんですよ。

委員：こういうものを出すということは、そういうことなのだろう。

委員：ただ単に、いろんな要素を集めることを表現したかったということかもしれない。現実には色々議論してちゃんと納まるだろう。

ただ、無理に残さなくてもいいという気がする。

委員長：それでは、外すことでいいですね。

【エは選外に決定した。】

続けて、クのパネルを加えて審議した。(ク、カ、イ、ウ、サ)

委員長：クについては、外側の造りが、これが市役所なのかと感じる。

委員：ほんとにそれがいい空間ができるか。中の執務空間が少し簡潔性に欠けていて、年間を通じて職員がそこで働くというところと暗いかなと思う。

委員長：会議とか休憩のときにだけ外が見える。

委員：とにかく固い。このシステムにこだわりすぎている感じがするので、フレキシビリティがあまりない。

委員：完全に今クを外していいのかどうか気になる。

委員：一旦、保留にしよう。

委員：キ、ケ、コはともかく6つからは落とせない。ただし、AとCとが入り混じっている。

委員長：Cが1個ずつある。ケは2つ。

委員：ウはAが一人もいない。

委員：ウはこの評価で本当によいかという感じだが、意外にうまいかもしれない。

委員：多分これは、プロポーザルの要領をよく守ったのかもしれない。よくない表現を避けた。

委員：推奨の方がなんとなく手書き風だったので、一生懸命配慮したのかもしれない。

委員：私の力についての評価を上げてもいいのだが。

- 委員長：市役所として事務所が外側にあってもいいのか。距離があるような気がする。私はそれだけで点数を落とした。
- 委員：難しい。同一課が二つに分かれる。配置の問題なのかもしれない。
- 委員長：それを考えて繋げているような気もするが。
- 委員：逆の評価で言うと市民があらゆるフロアーに顔を出せる。ある提案になっている。これ以外は、みな分けている。行政は行政、市民は市民、後は中間点。
- 委員：真ん中をワンフロアーで突き抜けている方が、やはり使いやすい。
- 委員：ク案の逆の提案ではある。ク案は行政が真ん中で市民が周りにいる。
- 委員：これほど場所を取らなくてもいいかもしれない。
- 委員：先ほど私が言ったキ案とカ案というのは、沿道中庭型として共通している。そういう分け方はないか。ウ案は、道路側に向けた北側広場ということでは、コ案に近い、考え方が似ている。
- 委員：コ案は、ここまで細かく設計してしまうと簡易提案でなくなってしまう。こだわって造らなければならなくなる。もっとゾーニングだけでやってほしいというものはある。
- 委員：カ案は、このプロポーションを同じにしているが、こちらが大きく、こちらを小さくする、場合によってはこれだけがU型になるなど、色々あるのだと思う。たぶん趣旨は、真ん中に市民が行きますということ。行政側のプロポーションは確かにこれでは造りにくい。
- 委員長：一般には、低層階とか別のフロアーの一つにまとめて市民と、という案が多い。
- 委員：サ案もそうだ。市民と行政で按分している。これが一番普通の解決の仕方。カ案はそれを比較的逆に解いている。
- 委員長：サ案では、オフィスの空間を窓側は楕円形のテーブルが書いてあり、こちらは四角くなっている。
- 委員：ここはアトリウムになっている。実際はガラスが入っている。
- 委員長：ここの部分というのは市民との接触部分だと思う。それは重複利用ができる。それは外から見ても気持ちよさそうな感じだ。

キ、ケ、コを加えた8案のパネルを並べて審議した。
(キ、ケ、コ、ク、カ、イ、ウ、サ)

- 委員：ケは行政の方はどう考えるか。
- 委員：高い点を出したが、このままでは議会の関係が全然入っていない。
- 委員：面白いのは階段と横つなぎの緑が交差している。そこに面して議会がある。
- 委員：これは、屋根を付けるのか。
- 委員：緑の上は屋根がない。
- 委員：費用面がどうかということと、ほんとにいい空間ができるか、市民と詰めていくプロセスがうまく保証できるかどうか。これほど主張が強いと市民の意見を捨ててしまう恐れがある。これから詰める部分が少しあるほうがいいということ

ともある。

委員：イ案はどうか。

委員長：これは、綺麗に見えるが本当にそうなるのかとなるとどうか。黒いのも薄いのも両方あるべきだ。

委員：建築の提案があまりない。

委員長：外すとしたらこれを落としたい。

委員：よし悪しは別にして、街並みに対するものは、これが一番一生懸命やっている。見え方など。1次の時からさかんに言っていたが、住宅地とこちらのちょうど結節点になっている。

委員長：市民ホールのマスと庁舎のマスがしっかりと並ぶ。

委員：ボリュームがすごい。

委員長：これとキを比べるとどうか。

委員：キ案はまさに沿道中庭型。街に対してある程度建築を作りながら入り口で向いて中庭に引き込む。イ案は、理屈は多分同じ。今、外す案として出ているのが、イ案が一つ。あと類似案を両方残すのかどちらか。ク案はユニークなことはユニークな案。他にはない。設備、構造等ものすごく建築的。

委員：4つ造ることが使いいいかどうか。現実の使い方からしたら主要なものとサブの2箇所ぐらいだろう。

委員：実際、プロポーザルであるのですが、パターン。

委員長：パターンだから明解になっている。外側に置くもの。日常の生活空間から外が見えないというのは、このライトウエルというのは小さい。

委員：やはり、日常事務空間でぱっとみて、それなりに外が見えるのはとても大切。そういう意味では、欠点がある。

委員：佳作というか、6案に残すという考え方はあるかもしれない。3案には残らないが。この次の段階を見なければ分からない。要領に忠実にやったのかどうか分からないが。

委員長：イだけ外して、事務所実績を見ることにする。

【イを選外とした。】

以下、応募者名を明らかにして審議した。(ウ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ)

委員長：イは、実績を見ないで外したということ。各パネルに名前を貼ってほしい。

委員：ここからの確認ですが、この7つは、順位は多少頭に入れるにしてもあまり関係なく、対等と見ていいということですね。

曾根さん(キ)、榎さん(サ)は、庁舎も含めた大きなものを多数やっている。原さん(ケ)も。

委員：藤本さん(ウ)は、事務所のようなものはあまりやっていないかもしれない。

委員：共同住宅。この人もそうだ。この辺が実績は少ない。18番(ク)は圧倒的に

デザイナーにウエイトがある。

委員長：実績からいって、いかがか。

委員：大宇根さん（コ）も事務所みたいなものはあまりやっていない。原さん（ケ）はやっているか。

委員：庁舎はやっていないのではないか。

委員：オフィスはやっている。

委員：曾根さん（キ）は。

委員：大組織事務所が協力している。

委員：かつ、ワークショップはバックアップ体制ができている。

委員長：ク（横河さん）とカ（元倉さん）は、やれないということはないと思う。

委員：入選は賞状のみか。

事務局：賞状だけと考えている。

委員：そうすると、一つの思想なり、がんばった提案としては評価したい。そういう意味では、入選者は7者でもいいのではないか。特徴が内側外側あるにせよ。

委員：ここままで、外したところの実績を確認したい。ほんとに外していいのか確認したい。

委員：特に3点に上がるなら実績だが、単なる評価だと無理に実績まで行かなくてもいいだろう。再度上がるという者はいない。7者入選ということではどうか。

委員長：提案性の高いものということ。

委員：提案としてはせっかく出されたもので、もったいない気がする。

委員：外した5つをみると、やはり薄かったり、欠点があったりする。

委員長：それでは、7者入選ということとする。

【7者を入選と決定した。（ウ：藤本昌也、カ：元倉眞琴、キ：曾根幸一、ク：横河健、ケ：原広司、コ：大宇根弘司、サ：榎文彦）】

以降、入選者7者から第3次審査に進む3者を選定するため審議した。

委員：元倉さん（カ）は、Aランクだと思ったがどうか。

委員：Aランクというのは、3者までのこと。

委員：これはAランクだというもの、3者までのものを検討してはどうか。原さん（ケ）の案はどうか。ヒアリングを聞いてみたい気はするが。

委員：ヒアリングは上手なような気がする。

委員：大宇根さん（コ）、原さん（ケ）は、ある意味では少し先に進みすぎていて、これから、来年色々議論するとき、その強さから引けなくなると議論が成り立たなくなってしまうというところが、今回の募集の趣旨からいって気になった。曾根さん（キ）のは、ものもいいし、バランスがいい。落としようがない。書き方のレベルも。榎さん（サ）のも魅力がある。すっきりしたもので一度議論したい。

委員長：一旦、曾根さん（キ）、榎さん（サ）をAランクの候補とする

【曾根さん（キ）、榎さん（サ）を第3次審査に進む3者の候補とした。】

委員：若手で元倉さん（カ）を入れたい。ただ、実績という意味ではどうか。大宇根さん（コ）のは、よくやってある。

委員長：でも表現が凶面ですね。

委員：完全にそうだ。それは確かだ。

委員：4者なり5者に並んでいたが、そのところが応募要領との関係で、減点となり、それがきいてしまったということ。原さん（ケ）のこれもそうではないか。

委員：これは、建築的に凶面を描いたというのとは違う。

委員：これは概念図だ。気を使っているのではないか。

委員：12ポイントのことからするとちょっと違反ということになるか。

事務局：少なくとも縮小したときの事を考えて適宜判断してほしいということだったが、もう少し配慮して欲しかった。

委員：町田のことを読み切っていない感じがする。

委員：「建築モデルは、市民と行政のこれまでの検討の結果をふまえた建築的デバイスである」というのはどういう意味なのか。そういう言葉が空回りしているような印象がある。綺麗だし力作なのだが。

委員長：すごく提案的だが、維持管理のしやすさなどはどうか。

委員：今回は、ここまで踏み込んで形を求めているではない。5年、10年、過去の積み重ねがあって、その次に、行政なり議会、市民と対応してもらって次のステップに進むところに今来ているが、この案は先に進みすぎている。うまくいけばいいのだが。

委員長：そういう意味では、原さん（ケ）の方が外れる可能性が高い。こちらは、低層だから。

委員：しかし、概念だから、形ができているかということ、こうなっているが。むしろ町田の市民が作ってきた基本計画にそのまま応えているかどうかということではないか。これは、どこにできてもいいように見える。

委員：3者から外れる理由ということですね。

委員：1次審査のときからモールが出ている。

委員長：環境デバイスとしての建築というのもある。

委員：「デバイスはモデレイターである」などさらに分からなくなっている。

事務局：2次審査では、1次審査提出資料と簡易提案書を併せて審査することとしている。

委員：連続性があるなら問題ないが、全く断絶しているとなると問題があるだろう。

委員：藤本さん（ウ）のは、1次との連続性がない。断絶している。言葉も全く違う。だから読んで分らなかった。

委員：そういう意味では外れる理由の一つとなる。発展性ならいいが、全然違うものを出されると、他の人は1次から縛られてきて提案している。

委員：原さん（ケ）は繋がっている。

委員長：大宇根さん（コ）のは明解だし、綺麗だし、間違いがない。

委員：北側広場というのもあり得る案だと思う。

事務局：ただ、最後に第3次審査の際、あの絵を他の応募者にどう説明すればいいか。明らかに違反というものをどう説明するのかなと思う。

委員長：コ（大宇根さん）は、ほんとに図面という感じだ。

委員：3席に相当するものだが、最後に1点マイナスせざるを得ないものとなるか。公平感からすると問題がある。曾根さん（キ）、榎さん（サ）は大丈夫か。1次と繋がっているかも確認したい。

委員：断面はいい。階層だと思えば。これとこれはいいと思った。ボリューム検討だと思えば。

委員：これはパースっぽい。

委員：インテリアパースを書いてはだめということにすると困る。活動イメージとして描くことがある。図書館の片隅とか。設計しないで書くことが多くある。

委員：違反していなかったのは1つもなかった。

委員：曾根さん（キ）のこれはいいのか。

委員長：曾根さん（キ）クラスになるとこの程度はフリーハンドで描けるぐらいのもの。

委員：榎さん（サ）はそれを写真で逃げている。

委員長：そのパースは概念で、実例で示さなかった。詳しくは描かなかったというもの。グレーゾーンがはっきりしないわけだ。

委員：曾根さん（キ）と榎さん（サ）は、見たけれどいい。

委員：繋がりはよかった。

委員：違反はないということ。大宇根さん（コ）はそれを含め減点があったということ。

委員：藤本さん（ウ）は5名のところまでは入るが、3席までには入らないということ。

委員：元倉さん（カ）はどうか。

委員長：中庭案が2つだから。

委員：これが2つになるというのは、解でもあるということかもしれない。一つの正解かもしれない。

委員：そう、中低層にして中庭をとって街並みを造るというのが可能だから、正解かもしれない。

3案選ぶことについて、どれでもその3案はいいという選び方をする。

委員：もちろんそうだ。

委員：バリエーションとして入れておくといいなという感じがある。

委員：作品コンペではないから。同じタイプが出てきても仕方がない。

委員：原さん（ケ）がもし選ばれたらすごい建物にはなるが。町田の京都駅のようになる。

委員：成功したらインパクトがある。

委員：シンボルになる。事務局の技術職はすごく勉強になる。

委員：駅だから人が来ているという活気の循環だが、駅から離れた市役所だから、土日は深閑とする。いくら装置がいいからといっても。これ自身が駅なら別だが。

委員：ここはコンペであればこの辺の範囲の模型を作れば、高さとかボリューム感、スケール感がよく分かるのだろう。

委員長：機能的にどういうものなのかが気になる。

委員：市役所というよりオフィスみたいな感じだ。

委員：権威主義的な感じがする。あまり暖かい感じがしない。商業ビルとか。

委員長：穴が開いて、屋根がふさがっていると中を風が吹きそうで、居ごちがよくない感じがする。

委員：結構高いだろう。雨はもちろん吹き込む。

委員：そういう意味では街並みから浮いてしまうかもしれない。駅から離れてしまっているから。ここにいくらいい空間を造っても、それだけで人を集める商業施設ではないから。

委員長：JR 横浜線と小田急線の駅間の通路ぐらいに屋根がかかっている感じであれば。

委員：二つの東急ビルがこういう形で造られていたらとてもすごい。

事務局：駅までは入っていないが。(庁舎用地の模型を提示。)

委員：こちら側から見ると階段があって、こちらは多分裏が見えている。横浜線から見たエレベーションがこれ。線路側はこれ。街側から見ると基本的にこう見える。

委員長：階段で塞がっている壁が上がっている分だけ落ち着いて見える。

委員：この絵では分からないが、この下をたぶん駐車場にしているのだと思う。庁舎用地の模型で見ると榎さん(サ)の案がボリューム的にはなんとなく合っている。これは異質のものができて、これとは関係ないという感じ。榎さん(サ)の案は、この辺とうまく、なんとなくなじんでくるような感じがする。

委員：榎さん(サ)のは、よく読むと、住宅地の配慮とか、ここにも緑がある。

委員：さらっとしているが必要なことは書いてある。

委員長：周辺への気配りはちゃんとしてある。あっさりしてこれだけ引き付けてくれるのはすごい。

委員：曾根さん(キ)のやつは、これも、これでいいのではないか。

委員：この2つは、今後色々と市民や行政と議論ができる。

委員長：上の2つは、これ(キ)とこれ(サ)ということでもいいか。

【曾根氏(キ)、榎氏(サ)を第3次審査に進む3者のうち2者に決定した。】

委員：元倉(カ)案について、西側に向かって、立ち上がっているのが気になった。

委員長：点線の位置がかなり敷地に寄っている。

委員：それでみんなエルで逃げていたりしている。それをそのまま上げているから。

委員：真ん中にそんなに取れない。事務所としての機能が果たせなくなる。

委員長：庁舎の認識が少し足りないのではないかという気がする。勤めている人たちのこと。提案のレベルでどちらをとるか。

委員：現場を見て、物が建築的にいいとなると思ったということと、プロセスとかの側から見て、施設の運用評価へ行くのではないか。

委員：あるいは市庁舎に置き換えたときにこの空間はどうだとか。

委員長：例えば、材料の使い方が薄い、家具の納まり、庇の取り付き方、屋根と壁の間がどうか、長い時間かかって出てくる問題。提案者によって材料の扱い方に差があるかどうか、その使い方によって耐久性、メンテナンスに影響が出てくる。それが見えるのではないかと考えた。どうするか。

委員：どちらも市役所の今後のかかわり方に大きく関係する。市民協働について、本当に覚悟してつくっていかうとするか。

委員：市民協働は1歩進めなければならないが、建築家だけのことを考えるのではなく、内容を聞いてみようとするか。

委員：市民の力を活かそうとすれば元倉（カ）さんの方になるのではないか。

委員長：各フロアで、各セクションがどういうふうに市民と協働しながら仕事をするかという問題はある。

委員：ぐるりでやるのがエル型ぐらいに減るとか、プロポーションが同じ幅ではなく、広いのと細いものになるということなど色々あるかもしれない。

委員：螺旋というのがまだよく分からないが。

委員：螺旋というのはイメージ。中庭の6階がある。中庭側に市民ゾーンがあって外側が行政ですよとっている。

委員長：ピンクのゾーンに自由に行き来できる階段があって、協働空間が階段によって繋がっている。

委員：この庭のゾーンは基本的には市民がこちらに行ったりこちらに行ったり、外側に行政が居ますよということ。面白いと思う。行政が、それがしやすいかは別として。

委員：本気で成立させようとするれば、行政とかなり議論が必要。

事務局：茶色い部分が必ずあるという発想は今までなかった。

委員長：市庁舎としてのプライバシーの高いゾーンと分けている人がいたが。

委員：榎さん（サ）は明快に分けて、それを巴型とっている。

事務局：そういう意味で、基本計画でセキュリティー等配慮してという考え方とは元倉（カ）案は違う。

委員：ただ、協働でという部分ではまさに受けている。理解している市民で、これがいいという人は当然出てくる。

委員：榎さん（サ）のやつは行政ゾーンと市民ゾーンを巴型で区切らせて、真ん中に吹き抜け的なものでフォーラムとしている。中間的解決の仕方をしている。

委員：曾根さん（キ）のもやや近い。これはボリュームの多寡でいくらでも変わる。行政も割りと受け入れやすい。

委員長：そういう意味では本当によく分かっているという感じだ。元倉さん（カ）の1次案との話は。

委員：これは、連続性はあまり関係ない。

委員：1次では、コミュニケーションの場としての庁舎としている。ギャラリーとかフレキシビリティ等。

委員：確かに、原さん（ケ）ほどの連続性はない。

委員長：この3人だと似ている雰囲気がある。

委員：原さん（ケ）は、案としては面白いが、町田ではないのではないかとということ

か。

委員：市庁舎だから。

委員：非常に大きな賭けになる。

委員：賛否両論となるだろう。京都ではいまだにその議論をしている。

委員長：全会一致で元倉（カ）案を3者に加えることとする。

【第3次審査に進む3者を決定した。（カ：元倉眞琴、キ：曾根幸一、サ：榎文彦）】

事務局：今、3者決めていただいたが、様式7、8についてはどうか。

委員：チームの構成は事前に見た。全員を集約すると約20職種ある。その中で大宇根さんは、一番多職種を使っている。交通計画、環境解析、防災計画、音響計画、構法、地域計画等。元倉さん、曾根さんは、ほとんど意匠、もちろん構造、電気はあるが、他はあまり書いていない。今の3者について言えば、曾根さん、元倉さんは構成メンバーに積算を入れていない。ヒアリングの時間くようか。

委員：入れていないがどういうことかということか。

事務局：人数的なものはどうか。

委員長：問題ないと思う。

5 第3次審査の進め方について

◎ 作品現地審査対象作品について

・応募者の希望、竣工年月等により、対象作品を以下のように決定した。

榎 氏	YKK R&D センター	東京都墨田区	2006年1月 6日(金) 午前
曾根 氏	いわて県民情報交流センター	岩手県盛岡市	2006年1月 6日(金) 午後
元倉 氏	福岡大学 A棟	福岡県福岡市	2006年1月11日(水) 午後

また、建物の雑誌掲載時のコピーとA4一枚程度の見るべきポイントを示してもらったこととした。

◎ 公開審査のヒアリングの進め方について

・応募者への質問項目については、当日、別途打合せを行うこととした。

◎ 1月21日(土) 傍聴者への配布資料について

- ・表書き(経過記載)とアンケート(下部がアンケート)、3案の資料は白黒コピーしたものを添付資料にすることとした。
- ・委員名及びプレゼンター名(応募者名)、注意事項はプログラムに記載することとした。

◎ パネル展示について

・12者の簡易提案書を12時過ぎから会場に展示する。その際、応募者名(所属事務

所名を括弧書き)を表示することとした。

- ・展示の配置は、入選者までを区別できるようにすることとした。

◎ 応募者への確認について

- ・当日、会場でのパネル展示を行うことへの了解を得ておくこととした。

◎ 写真撮影について

- ・会場内撮影禁止。簡易提案書についても著作権の関係から撮影禁止とする。プレゼンテーション開始前の冒頭での報道機関による会場風景の撮影は可。

◎ 報道機関への提供について

- ・簡易提案書をPDF化したものを審査講評と同時にホームページ上で公表した後に行うこととした。

◎ プレゼンテーション、ヒアリング時間について

- ・プレゼンテーション20分、ヒアリング20分とする。
- ・ヒアリング20分の中で、応募者が付け加えたいことがあれば発言してもらう。(2から3分以内)
- ・終了予告ベルは、3分前、1分前とする。

◎ 審査講評について

- ・講評は、2月中旬頃とする。

◎ 市長への結果報告について

- ・当日、委員会から市長への結果報告を行う。

以上 午後6時40分終了

町田市新庁舎建設設計者選定第2次審査の結果

受付番号	応募者	所属事務所
9	榎 文彦	(株) 榎総合計画事務所
24	曾根 幸一	(株) 曾根幸一・環境設計研究所
25	元倉 眞琴	(株) スタジオ建築計画

以上3者が第3次審査の対象者として選ばれました。

入選者として下記の4者が選ばれました。

受付番号	応募者	所属事務所
10	大宇根 弘司	大宇根・山下設計共同体
13	原 広司	原広司・C+A設計共同体
18	横河 健	(株) 横河設計工房
39	藤本 昌也	現代計画・野沢建築工房共同企業体